



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 不二サッシ株式会社

1992年7月、不二サッシ株式会社は、東京証券取引所への上場を再申請した。不二サッシとしては、株式上場後にエクイティ・ファイナンスを行なって、1992年度を初年度する  
10  
長期経営計画「2000年ビジョン」を積極的に進めたいと考えていた。

### 沿革民

不二サッシの前身である不二製造制作所は、1930年に鋼製建具の製造を目的として設立された会社である。1943年以降は軍需工場として兵器を製造した。戦後、軍需工場を民需  
15  
工場に転換する過程において、従業員30人程度の町工場に近かった不二製造制作所の株式を佐野友二氏が購入した。佐野氏は、1946年に、不二サッシ販売を、土木建設用材の販売会社として設立した。1949年に代表取締役役に就任し、積極的な経営によって企業規模を拡大した。1957年には、アメリカのフェントロン社からアルミサッシの技術導入を行い、1958年から日本で初めてアルミサッシの製造・販売に踏み切った。1961年には、不二サッシ  
20  
工業を、1963年には不二サッシ販売を東京証券取引所に上場した。

その後、東京オリンピック関連の建設ブームの恩恵を受けて、ホテルの窓用建材品の受注も増えた。1965年以降は、アルミサッシの需要は、住宅サッシを中心に急速に伸びた。1966年当時では、日本のアルミサッシ市場のシェアは、生産量ベースでみて、不二サッシは26.7%を占めており、吉田工業の7～8%を初めとして他社を大きく引き離していた。  
25  
佐野氏は、ワンマン社長として不二サッシを引っ張るとともに、1968年には、経団連の理事に就任した。しかし、需要の拡大とともに、新規参入企業も多くなり、競争が激化した。特に、1970年代に入ってから列島改造ブームに乗って、建設ラッシュが見られ、アルミ建材品の需要も拡大した。また、各社とも設備投資を行って生産能力を拡大した。

ところが、不二サッシでは、1968年に発売した電子ロック付きホームドアが、予想した  
30  
ほどの売上に結び付かず、売上の勢いを失いつつあった。このため、1971年には、吉田工

---

このケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科でのクラス討議のために同大学教授鈴木貞彦が公表資料にもとづいて作成したものである。このケースは経営の巧拙を例示するためのものではない。(1992年12月作成)